

来日10年型枠工で活躍

長南工務店

エマニエル・アモ・アコさん
アサンテ・アンソニーさん



明るい笑顔が職場になごみ

ガーナ出身のアサンテ・アンソニーさん(写真・左)とエマニエル・アモ・アコさん(同・右)。長南工務店(東京都国分寺市、三浦勉社長)の協力会社・真島建設(埼玉県所沢市、真島創一社長、同・中央)で、型枠工として活躍している。二人とも来日して10年、奥さんとはともに日本人で、1児(アサンテさん)と2児の父である。勉強熱心で流暢な日本語で話してくれる。

真島社長は「まじめで、溶け込もうという気持ちがある」と話す。「図面を見てパイプやベニヤなどの数量を拾い出し、手配してやっている」と、自分で図面を見て、自分の考えて仕事をしている。だから、現場でも一番施工の難しい箇所を任されている。二人は、いつも笑顔で、自分たちの方から他職の人に声を掛けコミュニケーションをとる。「彼らの笑顔を見ると、こっちもつれくなる」との声も。作業所内を明るい雰囲気にしてくれる欠かせない存在になっている。

経験積んでアイデア出したい

ただ、1級技能士の資格も取得できるレベルだが、筆記試験に課題がある。「会話は問題ないが、試験問題をすべて理解するのはまだ難しいようだ。試験問題が英文か、通訳をつけられたら合格する実力を持っている」と真島社長。

一方で、いわれない差別も受けることがあるという。ある現場に応援に行ったとき、現場に入れてもらえなかったことがあるそうだ。「確定申告もし、きちんと税金を払っている。証明書も持ってきているのに、現場に入れてもらえない。差別があるのが残念だ」とも。

まじめにがんばっている彼らのような外国人もいることを多くの人に知ってもらい、理解してもらえらる土壌づくりが必要だ。